

登録コード	UAA12500	開講年度	2026				
授業題目	歴史学総合演習					担当教員	山本 英二
						副担当	塩原 佳典
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・4時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学，2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					日本史研究に必要な知識と技能を獲得し、歴史的思考ができるようになる。	
(2)授業の概要	主に日本史学について、時代区分に従って代表的な研究を取り上げ、内容を吟味した上で、その分析手法や分析結果について批判的に検討する。 内容の検討者と分析手法・分析結果の批判的検討については、それぞれ受講者に担当を振り分け、報告する。						
(3)授業計画	第1回 オリエンテーション 日本史研究の構造と授業の進め方（担当：山本） 第2回 テキスト講読：日本古代史研究 推古朝と厩戸王の評価（担当：山本） 第3回 テキスト講読：日本古代史研究 天武朝と「日本」「天皇」（担当：山本） 第4回 テキスト講読：日本中世史研究 武士論研究の現在（担当：山本） 第5回 テキスト講読：日本中世史研究 院政期と「治天の君」（担当：山本） 第6回 テキスト講読：日本中世史研究 中世の国制と「室町殿」（担当：山本） 第7回 各受講生による中間プレゼンテーション（担当：山本） 第8回 テキスト講読：日本近世史研究 幕藩制国家論の現在（担当：山本） 第9回 テキスト講読：日本近世史研究 身分的周縁論（担当：山本） 第10回 テキスト講読：日本近世史研究 儀礼と贈与論（担当：山本） 第11回 テキスト講読：日本近現代史研究 明治維新の歴史的評価（担当：塩原） 第12回 テキスト講読：日本近現代史研究 日清・日露戦争と国民国家（担当：塩原） 第13回 テキスト講読：日本近現代史研究 戦後社会論と同時代史（担当：塩原） 第14回 各受講生による総括プレゼンテーション（担当：山本・塩原） 第15回 まとめ（担当：塩原） 定期試験：おこなわない						
(4)成績評価の方法	e-Alpsの課題（50％）、授業態度（50％）の総合評価 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀、89-80％ 優、79-70％ 良、69-60％ 可、59％以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している＝秀】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある＝優】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある＝良】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある＝可】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	事前にe-Alpsで配布するプリントを予習すること。 事後には、e-Alpsへの授業内容に関する課題を提出すること。						
(7)履修上の注意	事前に十分に予習をして授業に臨むこと。						
(8)質問、相談への対応	オフィスアワー【水曜日12:10～13:00】						
【教科書】	各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。						
【参考書】	文藝春秋編『日本史の新常識』（文藝春秋、2018）						